



第43巻 第5号

史学・地理学・考古学

画文帯神獸鏡と古墳文化	桶口隆康 (1)
地理学の本質	宮川善造 (18)
余戸論	新野直吉 (38)
『イーゴリ遠征物語』における「ルーシ」 という言葉について	木崎良平 (60)

研究ノート

交代寄合美濃衆について	日置弥三郎 (80)
——特に西高木家——	
中世今堀郷の農民構造と延暦寺	黒川正宏 (95)
フランス革命における地主制の問題	服部春彦 (120)

書評

上田正昭著：日本古代国家成立史の研究	八木充 (140)
宮本又次篇：藩社会の研究	朝尾直弘 (148)
Carlos Quirino: Philippine Cartography	室賀信夫 (153)

紹介

難波宮址の研究	尊卑分脉	日本城郭全集	日本産業史大系 (関東地方篇)
大会予告・例会予告			

史学研究会

京都大学文学部内

京都大学文学部東洋史研究室
東洋史研究会

史学研究会大会 予告

左記の日程で本会及び読史会・東洋史談話会・西洋史読書会連合大会を開催いたします。多数御参加下さいませよう、御案内申しあげます。

◇十一月一日（火）午前八時半～午後六時

見学会 彦根探訪

講師

京都大学
教授 柴

田 實氏

三上神社・彦根城・美術館・大老記念館・渡岸寺・多賀神社・木宮神社（以上バスにて巡回）
参加会費 五〇〇円（昼食費を含む）

※参加御希望の方は、会費を添えて十月二十日までにお申込下さい。当日お申込の受付はいたしません。なお、都合により見学場所を若干変更するかも知れませんが、あらかじめお含みおき下さい。

◇十一月二日（水）午後一時より

史学研究会大会及び総会

（題未定）

於京都大学楽友会館

東京大学
教授 竹 内 理 三氏

居延漢簡について

京都大学
教授 森 鹿 三氏

◇十一月三日（祝）午前九時より

読史会・東洋史談話会・西洋史読書会各大会

（備考）各大会の詳細なプログラムは十月下旬次号（四三巻六号）とともにお送りいたします。なお、大会出席のため出張依頼状の必要な方は、なるべく早く本会宛御連絡下さい。

会員各位

史学研究会

とある。本文中引用の「濃州御行記」の「城郭に彷彿たり」と記しているものである。いま名大に年代不明の「百分一之割図」との屋敷大絵図あり、石垣と土塀とでめぐらした南北最長七一間、東西同六一間の地に、建坪一五四坪（一九四畳）、一〇三坪（一四一畳）、五一一坪（一三六畳）の三棟（之がまた幾棟にも分れていたであろうが）がコの字形につらなり、建坪合計七八六坪（四七一畳）という広大な建物がある。以上の畳数は記入があるが坪数は記入がないので、百分之一との縮尺で割出した概数である。つづいて南方に家中屋敷二ヶ所が描かれている。この絵図は「以来とハ御建前も広ク御立派ニ」（明治二年歎願書）なつた焼失後の絵図かも知れない。

②0 加藤竹彦氏「宿助成としての貸附金の実態―関ヶ原宿の場合」『岐阜史学』第二二号。

②1 『養老郡志』一〇五八頁以下。

②2 鈴木寿氏「旗本領の構造」『歴史学研究』第二〇八号。
○文書閲覧の便を与えられた名大図書館に感謝の意を表したい。

執筆者紹介

- | | |
|-------|------------|
| 樋口隆康 | 京都大学助教授 |
| 宮川善造 | 東北大学教授 |
| 新野直吉 | 秋田大学助教授 |
| 木崎良平 | 鹿児島大学助教授 |
| 日置弥三郎 | 岐阜大学教授 |
| 黒川正宏 | 広島県立舟入高校教諭 |
| 服部春彦 | 京都大学大学院学生 |
| 八木充 | 山口大学助手 |
| 朝尾直弘 | 京都大学研修員 |
| 室賀信夫 | 元京都大学助教授 |

例会予告

十月一日（土）午後一時より

於京都大学楽友会館

東洋学者会議・国際歴史学会議に出席して

宮崎市定
(予定)

宮崎理事長には、去る八月モスクワでの第二十五回東洋学者会議、ついでストックホルムの第十一回国際歴史学会議に出席されましたので、早速に帰朝報告をお願いしております。多数御来会をお待ちいたします。

地方史研究協議会編

日本産業史大系

— 関東地方編 —

紹介

近年経済風土記等と称して地方の経済史関係の書物や叢書が目立って出版されてきた折から、学者の真摯な研究機関である地方史研究協議会が故野村兼太郎以下老若合せたこの方面での専門家多数を揃えて、総論編をもふくむ地方毎の産業史大系八巻を企図し、その一部が既に出版されたことは慶賀すべきである。しかも従来の大家のみによるおきまりの記述内容とは異つて、メンバー中にも一、二の地理学者も参加していることは、便宜な付図や、地帯毎の叙述配列等に充分伺うことが出来る。例えば関東編にあつて江戸に対して江戸周辺の産物をあげ、ここに江戸近郊の蔬菜栽培から始めて行徳の塩業、銚子・野田の醬油、行田の足袋、狭山の茶、青梅の林業、川口の鋳物等を収め、ついで関東の漁業地帯や北関東の織物地帯をその外周地帯として一括さす等である。ところが同書についてさらに詳しくみてみると関東の特産物として常陸、下野の紙や常州のこんにやく、常陸及び秦

野の煙草があげられ、ついで特権的保護産業中に上州の砥石や足尾銅山等をあげて、第二の周辺地域の項からは別扱いにしている。また突然に殖産興業の項がおかれ、最後に近代産業への転換に終っている。よくみると章節がないことや、本書の構成が大体専門執筆者本位であることが気付かれるのであり、一方地方史という以上地帯論を考え、地方の産業史のしめくりを近代資本の形成と工業地帯の発生で終らそうとするもののようにである。それにしても地方史における産業立地論と地帯論を本書においていかに組合せるかの努力がやや欠けているように思われる。これは関東、近畿両編とも序説の執筆者になおかかる新しい意図の見出されないことから明かである。地理学者が地域構成の基盤に流れる歴史を常に無視しないように努力しているほどには歴史家は地域論を真剣に考えてはいないように思える。関東地方の産業を江戸という一大消費地を中心としてチェーン的な圏構造に従つて配列するとか、なお地方の概念に考へべきものが多くあるのではなからうか。本書が学術の薫り高い叢書であるだけに、大系への期待は大きい。

(一九五九年東京大学出版会 五六〇円)

(藤岡謙二郎)

編集後記

この夏休み、宮崎理事長が国際会議に御出席のため、ソ連・北欧諸國を歴訪なさるのをはじめ、我々は研究旅行などに費やし、今後の研究計画を整備致しました。その炎暑のうちに編集した本号も、爽やかな秋風とともにお届けできることになりました。内容的にも地理学の性格づけに關する本質論や、細緻な語彙考証など多彩で、関枯れが杞憂に終つたことを喜んでおります。また先号同封しましたアンケートについて多くの建設的御意見をいただき、感謝致しますとともに、お忘れの方は至急御送付下さるようお願い致します。今後とも、ややもすれば安易な編集方針に陥りがちな我々に、御批判をお寄せ下されば光榮に思います。御意見をどのように紙面に反映さすかを話しあつておりますが、そのためにも充実した玉稿をお待ちしております。

(山澄元)

定価一八〇円

一九六〇年八月二十五日印刷
一九六〇年九月一日発行

発行所 京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

理事 長 宮崎市定
編集主任 赤松俊秀

印刷所 京都市下京区西七条御所ノ内東町三九
中村印刷株式会社

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XLIII, No. 5 Sep., 1960

CONTENTS

Articles :

- One Aspect of Ancient Japan seen
from the Imported Mirrors..... *T. Higuchi* (1)
- Nature of Geography *Z. Miyagawa* (18)
- On *Amaribe* 余戸..... *N. Nino* (38)
- On the word "Rus" in "the Tale
of the Raid of Igor"..... *R. Kasaki* (60)

Notes:

- On *Kôtai-yoriai-minoshû* 交代寄合美濃衆..... *Y. Hioki* (80)
—especially of the *Nishitakagi* 西高木 families—
- The Peasant Structure in *Imaborigô* 今堀郷
and the *Enryakuji* Temple 延暦寺 in the
Middle Ages..... *M. Kurokawa* (95)
- A Problem of the Landlord System
in the French Revolution..... *H. Hattori* (120)

Book Reviews

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI
(*The Society of Historical Research*)
Kyoto University, Kyoto, Japan